

平成30年度 日本大学認定こども園 自己評価票

〔本園の目指す学校像〕

日本大学教育憲章に基づき、「のびのびと自己を発揮し、人と共に生きる子ども」を育てていく事を目指し、子どもの意欲や興味、関心、好奇心、探求心などの心情、考える力、学ぶ力を豊かに育てていく。

〔本園の特長及び課題〕

日本大学認定こども園は、幼保連携型認定こども園である。幼児期の学校教育を担ってきた幼稚園と、養護・保育を主とした保育所機能を一体化して「質の高い教育・保育」を提供するとともに、子育て支援を軸とした、地域を支える機能をも発揮していかなければならない。

平成30年度の取組結果

〔概況〕

本園は設立2年目であり、園運営も軌道に乗りつつある。本こども園の全体的な教育や保育も計画どおり実施することができ、また、子ども達の健やかな成長を確認することができた。地域への子育て支援を多少ではあるが手掛けることもできた。

6か月児から2歳児の乳児には家庭的な保育を、3歳児から5歳児の幼児には集団を前提とした教育・保育を実施したが、各学年から学年への切れ目のない教育・保育の接続や移行についての全体的な計画を、教職員にもっとしっかりした形にして示す必要があった。来年度は、本こども園の‘教育・保育計画’を今まで以上により具体的に示し、教職員全員が同じ方向を向いて学年から学年へつながっていく教育・保育を目指せるよう努力して行きたい。

教育課程・指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
主体的に遊びこむことができる環境づくり	園庭には昆虫が集まってくるよう、季節感あふれる野菜を栽培し草花や木々を植え、子ども達が好奇心や探索心を持てる環境を作った。毎日遊ぶ遊具は素材にこだわり木製を多く取り入れ、子ども達が映像や色を想像し遊ぶことができるよう、木製玩具は色の無い白木の物を用意した。また、子どもの発達と成長を見ながら、教職員が手作り玩具を多く提供した。	A
健康な心と体の育成	特別教育の運動指導では、「幼児がどのような心の動きを体験したか」「運動技能の向上だけを図らず、心の動きの体験の場を持たせる」ということを狙いとして実施した。その他、友だちと全身を使って身体を動かす遊びを楽しめるよう計画を立て実施した。自分の感情や行動を少しずつコントロールできるよう、また、相手の気持ちにも気が付けるように、子ども同士のけんかは大切な体験の一つと捉え、丁寧に関わるようにした。	A
基本的な生活習慣を身に付ける	園児一人ひとりの個人差・発育・発達状態の把握に努め、配慮した適切な指導を心がけた。	B

園生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
保護者会と保育参観	子ども一人ひとりの育ちや、園での様子、教育・保育で大事にしているところなどを保護者に理解してもらうため、子どもの姿を動画に撮り保護者会で見てもらった。園での我が子の姿を見て、園への理解を深めてもらうため保育参観を実施した。	B
伝統や四季を感じる	日本古来の行事を積極的に教育・保育に取り組み、制作や歌などの表現活動、遊び	B

行事や室内環境の工夫	に生かした。子ども達が行事や四季を大いに感じられるよう、自然物を取り入れたオブジェを工夫して作り展示するなどした。	
安心と安全	乳児には、午睡時の5分おきのチェックの実施と個人別保育計画を作成し、一人ひとりの育ちを確認している。毎月の事故防止チェックリストで、室内外の安全を確認している。	A

情報提供・管理

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
子どもの生活や遊び、成長を保護者と共有	乳児は一日の生活面と遊び成長について、個人別に連絡帳に細かく記録し保護者と毎日やり取りをし、幼児は毎日各クラス担任が活動や遊びなどを書いて掲示板に掲示し、園での子どもの様子を伝えるようにした。保護者会では子どもの活動や遊び・生活を動画で伝えるようにした。	B
教職員での情報の共有化	本こども園は朝の7時15分から夜の8時15分まで開園しているため、全教職員が一堂に集まっての会議がほぼできない。そこで全教職員が土曜出勤をし、テーマを決め園内研修や情報の共有に努めた。日々の連絡事項や子どもの様子・保護者からの意見などについては、毎日の昼礼で、教育・保育計画の反省と次月の作成については毎月の定例会議で行うが、全教職員が揃わないため、ホワイトボードに記録し、後で確認できるようにした。また、写真に撮り写真を配るなどしたりして共有に努めた。しかし課題は多く、次年度でも工夫と努力が必要である。	C
ホームページ	ホームページを活用し、本こども園の取り組みや案内等を配信した。	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
配信メール	災害や区からの緊急メール等について、配信メールを利用し配信した。	B
園内外の見回りの徹底	教職員のヒヤリハットから見えてくる園内外の危険個所について、早急な対応を心がけた。	A
教職員の職場環境の維持と健康管理	全教職員にヒヤリングを年2回実施し、自己目標の確認を行い、また、意見や要望についても述べてもらい、業務の見直しと教職員のワークシェアにつながるようにした。	C

保護者との連携・子育て支援等

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
貸し出し図書	家庭で、親子の触れ合いの時間に、絵本の読み聞かせを是非取り入れてもらい親子で心地よい時間を過ごせるよう、また、子どもが良質な絵本を読んでもらうことで、豊かな言葉に触れられるよう絵本の貸し出しを実施した。	A
保護者の学習会	専門機関から講師を招き子育て中の保護者と共に、子どもの育ちや気持ち、大人も子どもも過ごしやすい環境作りについて一緒に考えられる内容の学習会を実施した。	C
子育て支援に向けた取組の実施	本こども園の幼稚園機能の園児の保護者に対する、あずかり保育を実施した。親子遠足を実施し、親子や保護者同志の交流を図った。	A

地域との連携

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
地域交流の実施	地域の子育て中の保護者には、お子さんを連れて来園してもらい、園児と一緒に遊び育児相談や身体測定を行い、また、栄養士・看護師の専門性を生かした離乳食の試食会・感染症予防と皮膚疾患のケアについての話しなど、子育て家庭の支援を2か月に1度、年6回実施した。	A
近隣との交流	子どもと一緒に園庭の梅を収穫し、梅ジュースを作った。ビンに梅ジュースを入れ日本大学認定こども園産梅ジュースのパッケージをビンに貼り、本こども園の近隣の家庭に年長組の子ども達と配った。 秋の遠足には、生物資源科学部の農園でさつま芋掘りをさせて頂き、見事な芋の収穫があり、年長組の子ども達と近隣を回り配付し、日頃から見守って頂いていることへの感謝を述べた。	A
保育ネット世田谷	世田谷区が主催する「保育ネット世田谷」に参加し、近隣の保育施設運営者と顔見知りになり情報交換や共に学び保育の質向上につなげている。近隣のこども園と保育施設と「となり組」を作り、共に情報共有の強化や災害対応を学んでいる。	C

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

平成31年度の取組目標及び方策

教育課程・指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
主体的に遊びこむことができる環境づくり	園庭には昆虫が集まってくるよう、季節感あふれる野菜・草花を植え、子ども達が好奇心や探索心を持てる環境を作る。どの玩具で何を育てたいか、どの年齢にどんな遊具がふさわしいかを教職員で話し合う場を作り、共通理解を持つようにする。子どもの発達と成長に合った玩具を教職員が素材や安全性に気を付け作る。	通年
健康な心と体の育成	特別教育の運動指導では講師から教職員が学び、「幼児がどのような心の動きを体験したか」「運動技能の向上だけを図らず、心の動きの体験の場を持たせる」ことを狙いとして実施していく。友だちと全身を使って身体を動かす遊びを各年齢に合わせた計画を立て実施していく。自分の感情や行動を少しずつコントロールできるよう、また、相手の気持ちにも気が付けるように、子ども同士のけんかは大切な体験の一つととらえ、丁寧に関わる。	通年
基本的な生活習慣を身に付ける	園児一人ひとりの個人差・発育・発達状態の把握に努め、配慮した適切な指導を心がける。	毎月の月案反省会議で確認する。

園生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
保護者会と保育参観	子ども一人ひとりの育ちや園での様子、教育・保育で	保護者会・各クラス5月・1月

	大事にしているところなどを保護者に理解してもらうため、子どもの姿を動画に撮り保護者会で見てもらう。園での我が子の姿を見て、園への理解を深めてもらうため保育参観を実施する。	保育参観・希望者は常時受け入れ ・乳児は秋 ・幼児は春
安全対策	看護師による乳幼児の蘇生法と感染症対応の園内研修を実施する。午睡時、乳児は5分おき、幼児は15分おきのチェックの励行	通年
伝統や四季を感じる行事や室内環境の工夫	日本古来の行事を積極的に教育・保育に取り組み、制作や歌などの表現活動、遊びに生かす。子ども達が行事や四季を大いに感じられるよう、自然物を取り入れたオブジェを工夫して作り展示するなどする。	通年

情報提供・管理

取組目標	取組方策	取組スケジュール
子どもの生活や遊び、成長を保護者と共有	「ご意見ボックス」を設置し、保護者からの意見や要望に対応する。 乳児は一日の生活面と遊び成長について、個人別に連絡帳に細かく記録し保護者と毎日やり取りをする。幼児は毎日各クラス担任が活動や遊びなどを書いて掲示板に掲示し、園での子どもの様子を伝える。	通年
教職員での情報の共有化	教職員が同じ方向を向いて、毎日の教育・保育を実施して行かれるよう、全員参加の会議を土曜に設定し実施する。	2か月に1回
ホームページ	ホームページを定期的に更新し、本こども園の取組やご案内等を配信する。	通年

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
園内外の見回りの徹底	園内外の危険個所について、早急な対応をする。	通年
教職員の職場環境の維持と健康管理	全教職員にヒヤリングを実施し、自己目標の確認を行うと同時に、意見や要望について聞き、業務の見直しと教職員のワークシェアにつながるようにする。	4月・11月
事故報告	ヒヤリハット・事故報告の記録簿に沿って状況・原因・対応策を出し教職員で共有する。	通年

保護者との連携・子育て支援等

取組目標	取組方策	取組スケジュール
貸し出し図書	良質な絵本の補充を行い、貸し出し図書の充実を図る。	通年
保護者との学習会	専門機関から講師を招き、子育てについて共に学んでいく機会を作る。	年3回予定、期日は未定。
親子遠足	0歳児から5歳児全園児参加の親子遠足を実施する。	5月

地域との連携

取組目標	取組方策	取組スケジュール
地域交流の実施	子育て家庭の支援を行う。地域の子育て中の保護者にお子さんを連れ来園してもらい、園児と交流したりする中で、育児相談や身体測定を行う。	5月・6月・7月・10月・12月・2月
近隣との交流	子どもと梅を収穫し、梅ジュースを作り、年長組と日本大学認定こども園産梅ジュースを近隣に配り、日頃の感謝を伝える。	7月
保育ネット世田谷	世田谷区が主催する「保育ネット世田谷」に参加し、近隣の保育施設と顔見知りになり、情報交換や共に保育の質向上につなげていけるよう学んでいく。近隣のこども園や保育施設との「となり組」に引き続き参加し、災害時の対応など共に考えていく。	保育ネット世田谷・年4回 となり組・年3回

中長期的目標及び方策

教育課程・指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教職員の意志統一と教育・保育の質向上	ベテランや若手が一体となった組織を作る。また、本こども園の目標達成のため、一貫性のある教育・保育環境を目指す。そのためには、教職員同士が学び合う風土を作り、人柄を理解し合う場と外部講師を招いての園内研修を行う。更に会議は伝達型だけでなく創発型といった会議を計画的に取り入れ、全員が同じ方向を向いて、教育・保育の質を向上させていく。	平成31年度から継続的に行う。

職場環境の整備

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教職員の職場環境の維持向上と健康管理	残業時間の削減と休憩時間の確保に対し、業務の見直しや事務軽減の検討を行う。 教職員のワークシェアの推進	通年

地域貢献「子育て支援」

取組目標	取組方策	取組スケジュール
地域支援センターの開設	母体となる本こども園が3年目の完成年度を迎え、子どもの数が定員の189名となる。本こども園の教育・保育を軌道にのせた上で、支援センター開設に向けて取り組んでいく。	平成31年度の完成年度の園運営を順調に軌道にのせた上で、見通しを持ち計画作成に努める。